

## 新しい道を切り拓いた いわての女性たち ⑦

### 岩手県初の女性医師 志賀 ミエ

1880（明治 13）年、岩手県胆沢郡金ヶ崎村の士族の娘として生まれる。貧しさ故、子どもたちの独立を望んだ父の教育により、四人きょうだい全員が専門職に就く。ミエは裁縫の教師となったが兄の「医者になれ」の一言で、1902（明治 35）年、教職を辞し、岩手医学校の創設者、三田俊次郎宅の書生となる。

翌年に上京し女子医学研修所に通う。同所は男女共学であった医塾済生学舎に於いて、共学は風紀が乱れるとの理由から締め出された女子医学生のために開設された研修所である。1904（明治 37）年、現在の医師国家試験にあたる前期医術開業試験に合格したが、難関の後期試験はなかなか突破できずにいた。この頃ミエは 26 歳。婚期を心配した兄により紹介された男性と結婚。しかし夫の裏切りにより破綻。

1 人になったミエは身篋っていたが、酷い悪阻に耐えながらも猛勉強を続け、1907 年に娘美子を出産。故郷の両親に乳飲み子である美子を預け勉強を続行。1909（明治 42）年春、ついに後期試験に合格する。当初は乳が張るたびに故郷の娘を思い出し、泣く泣く近所の赤ん坊や野良犬に乳を分け与えながら勉強に打ち込む日々だったという。医師免許取得後は 3 か所で実地研修をし、眼科、小児科、内科の臨床経験や手術経験を積み、1912 年、宇都宮にて志賀医院を開業する。紋付袴に黒いカバンの姿で意欲的に医療活動をこなした。志賀医院の患者はあらゆる階層にまたがり、百姓や職人なども多かった。彼らへのわけ隔てのない診察と交流で、医師としての信頼を獲得した。

診察中に笑顔を見せることはなく、「おっかない女医者」であったという。後年、同じく医者になった娘を脊椎カリエスにより亡くし、二人の孫を引き取り育てる。戦後の困窮時代に麻薬患者に脅されてモルヒネを売ってしまった事もあるという。

戦中戦後を生き抜き、1973（昭和 48）年 5 月 31 日、孫志賀かう子に見守られながら 94 歳の生涯を閉じる。

#### 【参考文献】

「祖母、わたしの明治」 1982  
「望郷の食卓」 2008 志賀かう子著

#### ＜国別女性医師データ＞

1 位	フィンランド	50.7%
2 位	スウェーデン	39.3%
3 位	ノルウェー	37.2%
4 位	ドイツ	37.1%
5 位	アイルランド	35.7%
：		
17 位	アメリカ	23.1%
18 位	日本	14.3%

加重平均＝32.3%  
出典 Nation master.com  
2000 年統計

## ● 女性相談（本館）

相談受付電話 **019-604-3304**

女性がかかえる、家庭や職場、身の回りのさまざまな悩みを、専門の相談員と一緒に考えます。性別や社会通念にとらわれず、一人ひとりの生き方を尊重する社会の実現をめざして、相談室はあなたらしい生き方を支援します。

- 相談には電話相談と面接相談があり、予約が必要です。
- 相談は無料です。秘密はかたく守ります。
- 相談開設時間

	10:00	17:00	20:00
月	10:00 ~ 17:00		
火	10:00 ~ 17:00		
水	10:00 ~	20:00	
木	10:00 ~	20:00	
金	10:00 ~ 17:00		

（第 2 火曜日、年末年始、祝日は休み）



## もりおか女性センター

管理・運営：特定非営利活動法人 参画プランニング・いわて

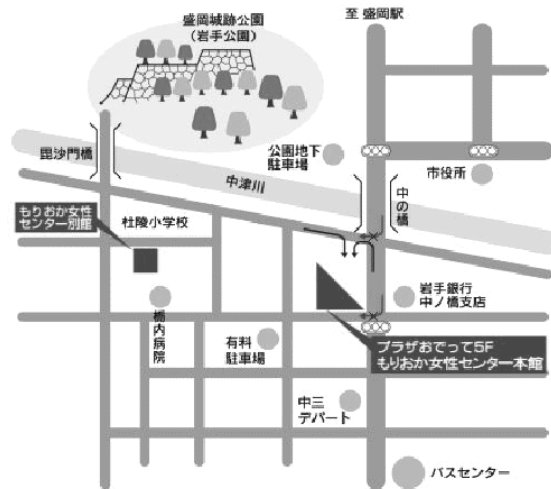
もりおか女性センターは、女と男がともに参画する社会をめざして女性をとりまく様々な問題を考え、解決するための施設です。男女を問わず、すべての市民が気軽に利用できます。

### ■ 本館

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通 1-1-10 プラザおでって 5 階  
電話番号 (019) 604-3303 FAX 050-2013-4750  
開館時間 月曜日～金曜日 9:00～21:30（土日祝 17:00 まで）  
休館日 毎月第 2 火曜日、年末年始

### ■ 別館

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町 2-8  
電話番号 (019) 624-3583 (FAX 兼)  
開館時間 月曜日～金曜日 9:00～21:00  
休館日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始



（バス）  
盛岡駅より茶畑・バスセンター方面行き バスセンター前下車  
本館まで徒歩 3 分、別館まで徒歩 8 分

※女性センターには、本館・別館ともに専用の駐車場はありません。  
おでって地下駐車場や近隣の有料駐車場をご利用ください。

ホームページ <http://mjc.sankaku-npo.jp>

### あとがき

病院の待合室にて。さて、どんな本を手取るか？と目に入ったのは、小学生向けの伝記集。大きな字で、30人くらいの偉人が紹介されているのだが、人の人生が 2～4 ページにまとめられている。どう考えても簡略化しすぎだが、その抜粋加減が、私にとってはとてもユニークで、下手な作り話よりもずっと想像力をかき立てられる。「行間を読む」の本来の意味とは違いますが、文字通り、行間ではしよられた時間に思いを馳せ、またその執筆者のセレクトセンスに思いを馳せ、へえ～、なんて思うのがどうも楽しい。また、その人の人生を自分の身の回りへ引き寄せ、何かと結びつけてあれこれ考え始める。宙を見つめてそういう空想にふけていた。連載「いわての女性たち」もそのように味わってもらえると嬉しい。(M)

ひと ひと  
—女と男、ともに参画する社会をめざして—

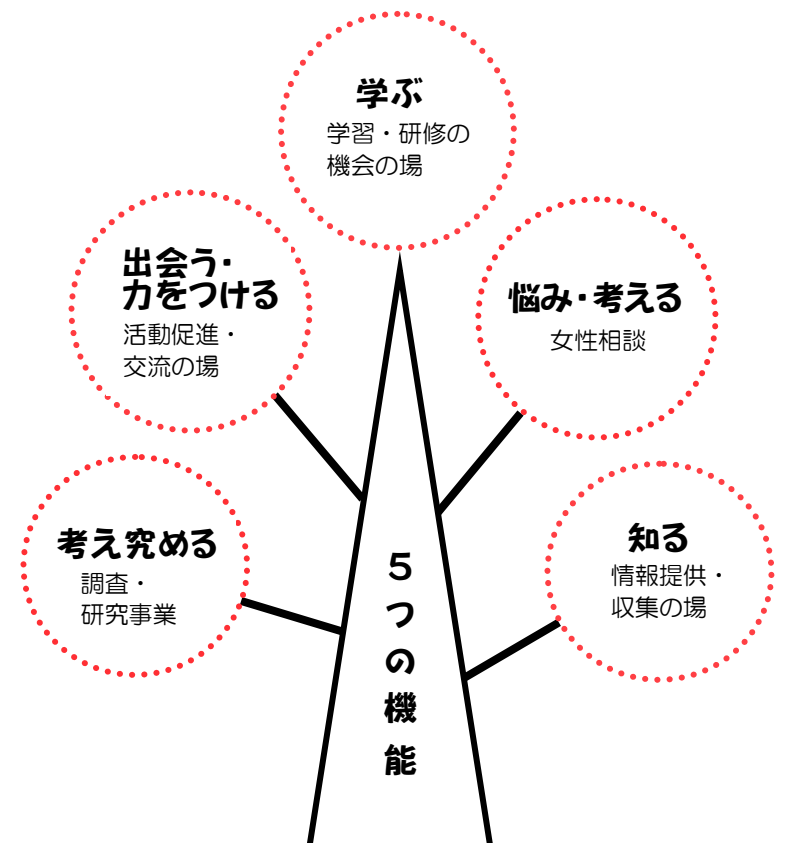
# もりおか女性センター

2010 年  
7 月  
No. 25

## ニュースレター

内容

- ◎ 講座情報
- ◎ 事業「もりおか展」の報告
- ◎ 図書を紹介
- ◎ 新しい道を切り拓いた いわての女性たち⑦「志賀ミエ」



平成 22 年度事業テーマ  
『女性センターで発見する 私のチカラ みんなのパワー』

発行：もりおか女性センター

● 起業応援ルームからのお知らせ

● 夢をかたちにするブログ入門講座

～ブログで始める起業準備～

日 時：8/19(木)、8/20(金) 18:30～20:30  
 会 場：女性センター別館 起業応援ルーム  
 対 象：食や農業分野で起業をめざす女性・12人  
 (Eメールアドレスがある方)  
 申込方法：Eメールで申し込みを受付。8/5(木)締切。

● ネットショップ開店準備講座(仮) (全4回)

日 時：9/7～9/28、毎週火曜、18:30～20:30  
 会 場：女性センター別館 起業応援ルーム  
 対 象：食や農業分野で起業をめざす女性・12人  
 申込方法：Eメールもしくは往復はがきで受付。8/30(月)締切。  
 申込先Eメールアドレス：mederunet@sankaku-npo.jp

● 講座情報

みんなのおしゃべりルーム

～言葉にしよう自分の気持ち～ (全8回)

日 程：8/24(火)・27(金)・31(火)・9/3(金)・10(金)・17(金)  
 28(火)・10/1(金)  
 時 間：10:30～12:30  
 会 場：女性センター本館  
 対 象：30代、40代の女性(全回参加できる方)  
 定 員：10人  
 参 加 費：無料  
 託 児：生後6カ月～未就学児  
 1人1回につき500円の自己負担  
 申込方法：8/17(火)10時から電話(604-3304)にて  
 先着順に受付。



● 図書コーナーよりご案内

図書コーナーに新しい本が入りました。ご利用ください。

2010年6月1日に急逝された高橋梨香さんの遺作  
**奇跡のウェディング**  
 高橋 梨香(著) 主婦と生活社 2010

本館

2008年に乳がんの闘病生活を綴った『がけっぴちナース』の著者が結婚までの道のりを綴った第2弾です。重篤な病気になった時には、誰もがその先にある『死』と直面し悩み苦しみます。前向きに頑張っている人は何て強い人だろうと思ってしまうがちですが、この著者は弱い自分を隠さずに家族や友だちなど周りの人たちに支えられ見守られながら『生きる』ことの大切さに気づいていきます。

漱石を愛したフェミニスト

—駒尺喜美という人

田中 貴美子(著) 思想の科学社 2009



真の人間の価値を求めて苦闘した漱石という人、その彼を正しく理解し、愛するフェミニストがいた。「いかに生きべきか」の問題を、自分の生きる場にひき据え、周囲の人々との関わりのなかに見つめ、掴みとろうとした駒尺喜美の評伝。

「格差社会」を乗り越える子どもの育て方

方見 稔幸(著) 主婦の友社 2008



格差が広がる社会をあきらめず、自分の人生は自分でつくるという「たくましさ」を持った子に育てるために、親ができることをアドバイス。「お金をかけてやれない子どもは不幸なのか?」の問いに対する答えなどあたたかいメッセージが込められています。

(コミック) ゴーガイ! 岩手チャグチャグ新聞社

飛鳥あると(著) 講談社 2010

一関市在住の新人漫画家、飛鳥あるとさんの話題の一冊です。この本では、岩手県にある地方新聞社の県南支局の女性記者が、地域の伝統文化や行事など取材する中から、地域の人々との交流や発見を描いています。

人生に大切なことはすべて絵本から教わった

末盛 千枝子(著) 現代企画室 2010

別館

彫刻家舟越保武を父に持ち、4歳から小学校5年生までを疎開先の盛岡で過ごした絵本編集者の末盛千枝子さんの自伝。人が生きていくための知恵や勇気、やさしさ、そして悲しみなどが描かれた宝物のような絵本の数々を紹介するとともに、世界中の素晴らしい人々と出会い交流するなかで、さまざまな波瀾を乗り越えてきた自身の半生を語ります。豊かな示唆と希望を与える一冊です。

世代間連帯

上野 千鶴子/辻元 清美(著) 岩波新書 2009

「おひとりさまの老後」のシナリオは、ロスジェネ世代には通用しない? 団塊世代は、年金を食い逃げして、逃げ切るのか? とかく対立が煽られがちな世代の違いを超えて、安心できる社会とはをめぐって、辻元清美さんと上野千鶴子さんが、政治家と社会学者として語り尽くします。

「男女共同参画週間 もりおか展 2010」終了

6/12(土)～6/20(日)の期間、もりおか女性センターでは「男女共同参画週間 もりおか展」を開催しました。

12日には、もりおか女性の会主催でセンター開館10周年を祝いました。10周年記念式典では、この10年を振り返り、当時のスライド上映や音頭上げ、合唱などが花を添えました。



細田副市長からの  
ごあいさつの様子

12日午後は、「男女共同参画週間もりおか展」のオープンとして講演会・対談を行いました。講演会では、講師に精神科医の斎藤環さんを迎え、「母は娘の人生を支配する」と題した講演が行われました。日本の家族関係の中では突出して親密に見える母娘の関係は、親密だからこそ病理も生じやすく、そんな母娘関係の病理について、主に女性作家によるマンガや小説、心理学の説などを引用し検証されました。娘にとつ



ての母親の影響は、息子にとっての父親の影響に比べ、直接的になりやすいという興味深い考察を伺いました。

対談では、斎藤環さんに伊勢志穂さんがさまざまな疑問や質問を投げかけるかたちで進み、講演内容をより深めることができました。



対談の様子  
(左)伊勢志穂さん  
(右)斎藤環さん

「なるほどジェンダー」パネル展示 6/15(火)～20(日)

おでって 2F ギャラリーに展示された「なるほどジェンダー」パネル 全41枚は、日本女性学習財団で発行している月刊誌「ウィラーン」に毎月1枚ずつ掲載されたものです。6/15(火)には、もりおか女性センター長によるギャラリートークが行われました。そして、このパネルの中から「自分はこの!」という1枚を選び、来場者一人ひとりが選んだパネルのところへ立ち、なぜそれを選んだかを発表していただきました。



「自分らしくじゃいけないの?」を選んだAさん、大人になっても自分らしくない自分がいるので、この言葉が好きです。

あなたが選ぶ一枚はどれ?



〈おでって 2F ギャラリー〉

「男性主導の防災訓練」を選んだBさん、"女は年寄りや子どもの世話、炊き出しの発想しかない。女性の目が全く無視されているのでこれを選びました..."

「女性の社会参画を阻むものは誰?」を選んだのはCさんとDさん、"女性だけの問題でもない。時代は変わっても両性に問題がある..."とコメント



<参加者の声>

- ・「男らしさ、女らしさに脳は関係ない」のお話には、胸がスカ～ッとしました。
- ・自分の子育ての参考になりました。また、自分と母の関係にも気づきがありました。